

1 審議会名	上田市地域クラブ活動推進協議会
2 日 時	令和7年12月18日 午後7時から午後8時30分まで
3 会 場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出席者	宮澤会長、矢島副会長、大日方委員、佐野委員、竹田委員、田中委員、西嶋委員、 緑川委員、矢島委員、由井東信教育事務所指導主事（オブザーバー）
5 市側出席者	小林文化スポーツ観光部長、春原文化政策課長、宮下文化政策課係長、 清水スポーツ推進課長、宮下スポーツ推進担当係長兼交流スポーツ担当係長、 酒井教育長、池田教育次長、渡辺学校教育課長、清水部活動地域展開推進担当係長、 齋藤地域展開推進コーディネーター、畠山地域展開推進コーディネーター、 綿内学校教育担当主査、小井戸学校教育担当事務職員
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	令和7年12月19日

協 議 事 項 等

1 開 会（事務局）

2 教育長あいさつ（酒井教育長）

3 人事通知書交付・委員紹介

4 会長・副会長選出

5 会議事項

（事務局）資料に沿い、以下について概要説明

- （1） 前回会議からの経過について
- （2） 「(仮称)上田地域クラブ」の応募・登録状況について
- （3） 「(仮称)上田地域クラブ」の愛称応募状況について
- （4） 今後の予定について
- （5） 意見交換

（委員）3点お聞きしたい。

1点目は、上田地域クラブの認定条件に、運営団体に加盟しなければならない旨の記載があるが、登録承認されたクラブは運営団体に所属しているのか。

2点目は、中学生以外も対象としているクラブが承認されているが、本来は中学生を対象としたクラブを承認するという形だったはずではないか。中学生以外が加入しているクラブを承認している場合、中学生の比率はどのくらいか。募集要項の中には、中学生が何名以上との記載がない。このような曖昧な形で進めて責任が持てるのかの懸念がある。

3点目は、地域展開により教員の負担はどの程度軽減されたのか。データがあればお示しいただきたい。

（委員）クラブ登録に関連してお聞きしたい。1次募集の結果（資料2別紙）について、1から7までは上田市地域クラブとして登録承認する、それ以外の青色で塗った団体はクラブとして登録せずに活動するということだが、登録承認されたクラブとそうでない団体にはどのような違いがあるのか。また、指導者1名という団体が多いが、継続的な活動としていくために指導者1名では厳しいのではないか。

（事務局）1点目の運営団体について、クラブ登録申請の際には記載してもらうことになっているが、特に学校の部活動からクラブ化する場合など、すべてのクラブに運営団体があるわけではない。運営団体が決まってから登録するのが筋ではあるが、まだ理解が進んでいない。まずはクラブを設立する。それからある程度関連のあるところは集約し、運営団体に加盟するということも考えている。そのため、一覧表の中では運営団体については記載を割愛している。申請の段階で運営団体が決まっているところには書いてもらっている。

2点目のクラブの中学生の比率について、クラブは中学生メインではあるが、今回は多世代での

活動も大事にしており、これは国の方針としても示されている。中学生の比率については明確にしていないが、登録申請時に名簿を提出してもらっており、中学生がいること、一般に偏りすぎていないことを確認している。

3点目の教員の負担軽減については、まだ上田地域クラブとしての活動が始まっていないのでわからないが、先生方からもクラブ化を希望する声は多い。

4点目の登録承認されたクラブとそれ以外に掲載している団体の違いについて、クラブ申請しない場合補助金は出ない。ただ、文化少年団や公民館など、これまでの活動に中学生も加わってもらい、活性化していきたいという団体が一覧への掲載を申請している。これまで部活動になかった分野の団体が、この機会を大事なチャンスとし、中学生に様々な経験をしてほしいと申請してくれている。上田地域クラブとしての登録はしなくても、活動を広げていきたいという傾向が感じられる。ただ、クラブ化については色々な動きがある。部活動の数は市内で130程度あり、合共同で活動していくところもあるので、同じ数まではいかないが、100程度にはなるのではと見込んでいる。今までは部活動の顧問の先生が1人で指導していたが、今後は指導だけでなく謝金支払い等の事務を含めクラブの運営もしていかなければならないため、慎重になっているところも多い。組織をきちんと固めなければならないし、立ち上げるのは簡単ではない。

(委員) 指導者1名のクラブが認定されているということはあるのか。

(事務局) 上田地域クラブについては、指導者は2名以上と明記している。しかし、それ以外の団体は認定が必要なわけではなく、今までも1名でやってきているので、そのまま掲載している。

(委員) 認定要件について、ガバナンス関係等は運営団体が見ていかなければならないという規約になっているのではないかと。要件として書いてあるが、あまり臨機応変に対応していると、登録クラブを増やすことが目的のように聞こえてしまう。加盟できる運営団体がない場合は事務局と協議するという記載があるが、その後のクラブのガバナンス関係等は誰が指導していくのか。

(事務局) 運営団体が明確になっていないクラブは、事務局が直接対応していくことを考えている。また、運営団体がないクラブだけではなく、全クラブを対象として研修をきちんと位置づけていく。事務局が行う研修を必ず受けるということを規約にきちんと盛り込んでもらう。

(事務局) 安全対策や指導者に対しての研修会はもちろんだが、マニュアル等を作成し全クラブに周知していくことも考えている。

(委員) 今は過渡期であり、様々なことをこれから作り上げていく段階である。このような質問を踏まえしっかりと組織作りに繋がるよう進めていきたい。他にご質問はあるか。

(委員) 移動方法についてお聞きしたい。クラブと情報共有し負担の少ない方法を検討するという記載があるが、自転車、公共交通機関、保護者による送迎を含めた中の負担の少ない方法の検討とは何か。パスを出して頂けるなどの案はあるのか。

(事務局) 現状では、具体的に別の手段として提示できる案はないが、クラブの実情や活動場所に応じ、どのような移動手段が必要か確認したい。市内でも公用バスを使用できないか検討しているが、委託で運行しており、運転手の確保や他部署との利用調整等、課題が多い。市の公共交通の担当課とも、路線バスの活用ができるか協議を始めているという段階だが、具体的には進んでいない。

(委員) その他、事務局からの報告、協議事項について意見や提案があれば積極的に出していきたい。

(委員) スポーツ少年団では、今まで主に小学生を対象としていたが、中学生を指導しているところもある。中学生には指導者が必要だが、その指導者の確保がとても大変だという話を聞いている。市で指導者を紹介いただければこちらも指導者を確保しやすくなりありがたい。

(委員) 県では指導者の登録など進んでいるのではないかと。国の動向や、県内の他地域の状況などについて情報共有やアドバイスをいただきたい。

(オブザーバー) 先日国から出された総合的なガイドライン案で、持続可能な地域クラブにしていくためには、各種団体や大学、民間企業の協力を得ることが不可欠であると示された。「連携」という言葉が繰り返し出てきており今後重要になってくると思う。県としても大学や民間企業との連携を進めているところだが、上田市の方で大学や民間企業との連携についての事例や今後の予定があればお聞かせいただきたい。

(事務局) 先日長野大学に伺い、学生ボランティアについて話をさせていただいた。また上田短大でも中学

生を受け入れるクラブについて検討していただいている。まだ確実ではなく検討段階だが、協力いただける体制があるのか今後協議していきたい。企業との連携についてはこれから検討するという段階。

(事務局) 信州国際音楽村とも、文化系の活動を今後一緒にしていくことを協議している。

(オブザーバー) 民間企業との連携について東信地域の情報提供をさせていただく。

1 点目は建設会社との連携により財政支援を受けている市町村の事例。財政支援の条件として、地元の中学生在がその企業の職場見学をするということがある。企業側のメリットとしては地域における企業の信頼性の向上、将来的な人材の確保があげられる。また中学生側にとってもキャリア教育の機会にも繋がっておりお互いにメリットがある。また、この建設会社には信州地域クラブ活動応援サポーターの認証ロゴが贈呈される予定。市町村と企業の連携であっても申請していただければ、県が認定する優良企業として登録が可能である。この認証がブランドイメージの向上に繋がるなど、興味を持っている企業が多いと聞いているのでぜひ検討していただきたい。

2 点目は、自動販売機による収益の還元である。ガイドライン案にも記載されているが、ある市町村では、道の駅に収益還元型の自動販売機を設置する取り組みが進められているとのこと。飲料メーカーと提携しており、協定の締結が見込まれている。自動販売機の売り上げの一部が地域クラブの運営資金として市町村に還元される仕組み。大きな金額ではないかもしれないが、安定的な資金確保には繋がるのではないかと。民間企業や大学にとってもメリットが生まれる形で連携を進めることが、持続可能な地域クラブ運営の鍵となる。企業との連携よりも優先すべき課題がたくさんあると思うが、こうした取り組みも検討していただけたら幸いである。

(委員) 他市町村での先進的な取り組みもぜひ参考にさせていただきたい。また委員の皆様からも今後への期待や今の思いを伺いたい。

(委員) 部活は中学生にとって大事なものと自分の経験からも感じている。地域展開の一番のメリットは地域と交流できること、多世代と交流できることだと思う。部活動のように、学校のみ空間の中で心身を鍛えることも大事な要素だが、それだけではなく開かれた地域で活動していく特性も活かしながら進めてほしい。中体連の大会の件などについても、とても大変な思いをされていると思う。また、信用問題やガバナンス関係、運営団体等、様々な問題があるが、地域の活動にスポットが当たるような市の取り組みであれば未来にも繋がっていく。

(委員) 小学校4校で将棋を教えていたが、指導者が足りず手一杯であった。続けていこうと思っていたが、指導者が一人だと都合が悪い時の代わりになる人がおらず断念せざるを得なかった。事務的な作業もたくさんあるため、持続可能な活動にするためにどうしたらよいか、マニュアル的なものがあるとよいのではないかと。

(委員) 自分の子が今回登録承認されたクラブに所属しており、下の子ども令和9年度に中学に入学する。完全に移行する年に入学予定のため、その学年には不安を感じている保護者がとても多い。どのようにスポーツや部活をやっていけばいいのかという話をよくしている。

自分の子のクラブでも、保護者と先生とで相談しながら地域展開を進めているが、責任者として動いてくれているのが学校の先生である。これまで学校の時間内に部活動として活動していたのが、クラブ化すると活動時間が今までより遅くなるので、私たち保護者が気にしているのは、先生方の時間外の指導の負担である。会費や謝金の話もあるが、先生方はボランティアのような形になってしまう部分があるのではないかと心配している。補助金もあるとのことだが、クラブで消耗品として使うものもとても多い。補助金とは別で指導者謝金について考えていただけるとありがたい。また、先ほど話に出た移動手段についても保護者は気にしている。経済的負担、時間的負担の軽減を目標にしているが、移動手段や、子供たちが活動までの時間をどのように過ごすのかも心配している保護者は多い。学校の教室を貸してもらい、そこで過ごしてから、活動時間にあわせ移動できるようにするなど、そういう点についても検討していただけるとありがたい。

(委員) 指導者、活動場所、お金のことなど様々な課題があると思う。私は野球を教えているが、指導をしている先生方と話す、子供たちがやりたいという以上は続けていき自分たちも関わりたいと言っている。ただ、教員の労働時間にかなり規制があり、地域クラブの指導の時間も勤務時間に含まれるため、やりたくてもできないという声もある。そのため指導者が圧倒的に足りない。先

生方がいなければ現実的には活動自体ができなくなるクラブもあるため、子供たちのことはもちろんだが、先生に関しても今後の方向性を検討していただきたい。

(委員) 本校は規模が小さい学校だが、女子バレー部からクラブ登録の申請中である。野球も今後申請していこうかという動きがある。このような人数の少ないクラブにとって、登録はハードルが高い。運営団体やガバナンス関係の話も出たが、子供たちにやりたい活動があり、それを保障していくためには、ある程度弾力的に申請できるようになると学校現場としては大変ありがたい。

(委員) 様々な思いをお話いただいた。委員の皆様からいただいたご意見について、今後の推進に向け検討していただきたい。学校や、PTA など現場の声もいただいた。その意見に応えられるような取り組みをしていただきたい。また私達委員も、各団体として意見や要望をまとめて事務局に届けるなど、全員で子供たちの未来のために部活動の地域展開を進めていけたらと思う。

6 事務連絡 (事務局)

7 閉 会 (事務局)